

税と共に生きる

筑西市立明野中学校

三年 林 奈々海

私たちの年代で税という言葉を目にすると一見関係のなさそうな言葉に聞こえますが実は生活していく上で関わりの大きいことだと分かりました。

普段、よく耳にするのは消費税の税です。近年でも消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられたということがありました。私はなぜ元の値段にプラスで消費税というものを足すのか疑問に思っていました。調べてみると、国や都道府県、市町村では、私たちが健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない様々な仕事をしていることが分かりました。そしてこのような公共サービスや公共施設を提供するためには、多くの費用が必要でその費用をみんなで出し合っているのが税金だということが分かりました。消費税がプラスされているのは、私たちが生きていく中で利用する施設やサービスの費用にあてるためだということを知りました。

税は国民の暮らしを支えており、私たちが社会で生活していくための会費といえるものであると知り、私たちにとって大切なものであり改めて深い関わりがあると感じました。

その税の使われ方は様々で私たちの身近なものでいうと、公立の

小・中学校の場合は教科書や教室にあるパソコン、実験器具や体育用具などに使われていると分かりました。税金はとても身近のことに使われていると思いました。また、公的サービスにも使われていて、私たちが安心した生活を送れるように、消防や警察の活動にも税金が使われていると知りました。学校のことだけでなく公共の場でも様々な目的のために税は利用されているということが分かりました。

私たちにとって大切な税がないとどうなってしまうのかについても調べてみると、公共サービスを受けるのにお金がかかってしまうということが分かりました。例えば救急車が有料になったり医療費がすべて自己負担になったりごみ収集までが有料になってしまっただけです。すべてが有料になってしまっただけなら負担は想像しきれないくらい大変なものになるのではないかと思います。このように考えると、いかに税というものが私たちにとって大切であり関わりが深く私たちもまた、税を大切にしていかなければならないと感じました。税のしくみや社会や公共の場でどのように使われているかを知ってみて将来大人になっていく私たちに大きく関わってくるものだと知り、税によって公共サービスや施設を利用することができているその大切さやありがたみに気づくことがこれから社会に貢献していく者としての役割であると私は思います。